

大阪体育大学 授業における生成AI活用ガイドライン（教員用）

1. 目的・位置づけ

本ガイドラインは、「大阪体育大学 構成員のための生成AI利用に関する基本方針」に基づき、授業・課題・評価・シラバス設計における生成AIの取扱いについて、教員が教育目的に応じて判断・設計・説明するための実践的指針を示すものである。

本学における生成AIの活用は、学生の主体的な学びを前提とし、教育の質の向上に資する範囲で行うものとする。

2. 基本的な考え方（教員向け）

生成AIは、学生の思考・探究・判断を支援し、その過程を高度化する教育ツールであり、思考の代替ではない。大学における教育は、身体を通じた実践、経験の蓄積および主体的な判断に基づくものであり、生成AIはこれらを代替するものではない。

授業における生成AIの扱いは、本学の基本方針を踏まえた上で、教員が教育目的に基づき設計すべき事項である。使用可否および利用条件の判断は、「何を学ばせ、何を評価するか」という観点に基づいて行う。教員は、生成AIの利用条件および評価方法を、学生に対して事前に明確に示す責任を負う。

3. 生成AI利用レベル（科目単位で設定）

授業における生成AIの活用は、教育目的に応じて段階的に設計する。

【レベル0】使用不可（原則禁止）

- 当該科目では、生成AIの使用を原則として認めない。
- 到達度確認、技能評価、知識理解を直接測定する科目等に適用する。
※完全な検出を前提とせず、口頭説明、実技確認等を組み合わせて評価する。

【レベル1】限定的に使用可（補助利用）

- 構想段階、論点整理、要約、校正等の補助的利用のみ認める。
- 本文生成や結論の作成は認めない。
- 生成AIを利用した場合は、利用内容の申告を求める。

【レベル2】使用可（条件付き）

- ドラフト作成を含め、生成AIの活用を認める。ただし、以下を必須とする。
 - 出典および根拠の確認
 - 誤りや不適切な内容の修正
 - 修正・判断内容の説明（利用申告）

※上記は設計の基準であり、各科目の教育目的に応じて適切に設定することが求められる。

4. 課題ごとの利用条件提示

科目内の個別課題について、学修目的や評価方法に応じて、科目で設定した利用レベルと異なる条件を設定することができる。その場合、担当教員は、課題提示時に利用条件を明確に示し、学生に誤解が生じないようにする。

5. 課題・評価設計における留意点

生成 AI を前提とした教育においては、成果物のみならず、思考過程および判断の妥当性を評価することが重要である。評価にあたっては、以下の観点を踏まえる。

- 学生が内容を自ら説明できるか
- 判断の根拠が明確であるか
- 実践や経験と結びついているか

生成 AI の利用の有無にかかわらず、成果物の責任は学生本人にある。生成 AI は補助的手段とし、単独での判断根拠としない。

6. シラバスへの明記（今後の検討）

すべての科目において、生成 AI の利用方針（レベル）のシラバスへの明記や成績評価の考え方等については、今後検討するものとする。

7. 教員の役割

教員は、生成 AI を単に制限または禁止するのではなく、適切な活用方法を示す教育的役割を担う。また、生成 AI の利点と限界を踏まえ、学生が主体的に思考し判断する力を育成する観点から授業を設計する。

8. 本ガイドラインの位置づけ

本ガイドラインは、「大阪体育大学 構成員のための生成 AI 利用に関する基本方針」および学生向け生成 AI 活用ガイドラインを一体的に運用することにより、教員・学生間の共通理解を形成し、教育の質の向上を図るものである。

本ガイドラインは、技術動向および教育実践の変化を踏まえ、必要に応じて見直しを行う。